

令和4年度 長崎県立中五島高等学校 学校評価表（自己評価）

<p>学校教育方針</p>	<p>1 一人ひとりを大切にする教育の推進 2 郷土愛をはぐくむ教育の推進</p>
<p>学校経営方針</p>	<p>1 生徒、保護者、職員の全てにとって魅力ある学校 2 地域から信頼される学校 3 さまざまな活動を通して、「生き抜く力」を身に付けられる学校</p>
<p>前年度の成果と課題</p>	<p>1 成果 (1) 広報活動 ・広報委員会が中心となって、月1回発行の学校だよりを充実させた。 ・学校ホームページの更新は行事ごとに遅れることなく実施された。 (2) 進路指導の充実 ・就職内定率100%を達成した。 ・進学についても、大学、短大、看護学校、専門学校等、志望先を全員が達成できた。特に、アカデミックキャリアコースから国公立大学を志望した2名全員が合格した。 (3) 授業の工夫・改善、通級指導 ・一人一台パソコンが2学期から導入され、職員と生徒の努力で短期間のうちに授業への活用が進んだ。 ・通級指導を軸に特別支援教育の視点を取り入れた指導が充実し、生徒の困りの解消に生かされつつある。所属の教員すべてが個別の指導計画の記載をできるようになった。 (4) 生徒指導と生徒会活動 ・問題行動の発生の防止や的確な対応については十分な取り組みができています。 ・身なりに関しては、年間を通して指導を行った。本校生らしい端正な身なりについて、生徒主体の体制で実施できるようになっている（中高style）。 ・生徒会による校内生活の工夫など、提言がなされた。その結果採用されたものもある。 (5) カウンセリングの充実 ・いじめ・悩みに関するアンケートを月に1回行った。いじめ事例や問題行動の早期発見に大いに役立ち、生徒指導を効果的に行うことができています。</p> <p>2 課題 (1) 基礎学力の定着 ・生徒間で家庭学習時間に大きな差がある。家庭学習のさらなる習慣づけが必要である。 (2) 特別支援教育の充実 ・通級指導はかなり進んでいるが、対象となる生徒の割合が増えている。校内での指導や分担の体制を工夫していく必要がある。 (3) ICT教育の推進、一人一台パソコンの活用 ・一人一台パソコンを活用した授業のさらなる工夫やICT関連業務の分担・整理が必要である。 (4) 生徒募集について ・新入生の人数は目標値にわずかに届かなかった。島内の中学生数の減少が顕著であるため、生徒募集のさらなる工夫が必要である。</p>
<p>本年度の重点努力目標</p>	<p>1 基本的生活習慣の確立 (1) 挨拶の励行、端正な身なり、時間厳守の徹底 (2) 生命尊重、いじめ防止、健康に対する意識高揚 2 学力の伸長 (1) 学び直し、個別指導による基礎学力の定着 (2) ICT機器の活用とAL型授業による能動的、主体的な学習の推進 3 「一人ひとりを大切にする教育」の推進 (1) 生徒、保護者との対話重視による信頼関係の構築 (2) 本校の実態に即した特別支援教育の在り方のさらなる研究と確立</p>

	<p>4 「キャリア教育」・「郷土愛を育む教育」の推進</p> <p>(1) 3年間を見据えた「総合的な探究の時間」の指導体制の構築</p> <p>(2) 公務員希望者指導の研究</p> <p>(3) 外部資源活用による視野の拡大、社会人としての基盤の涵養</p> <p>(4) ボランティア活動、地域活動への積極的参加</p> <p>5 志願者数増に向けての取り組み</p> <p>(1) 「学校だより」やHPによる定期的かつ細やかな情報発信</p> <p>(2) オープンスクール、学校説明会の形態と内容のさらなる充実</p> <p>6 職員研修の充実 ～学び続ける教員～</p> <p>(1) 全教員による特別支援教育を視点にしたチャレンジ授業の実施</p> <p>(2) 校内、校外での研修への積極的参加</p> <p>(3) 「学びの基礎診断」、「大学入学共通テスト」等の研究</p> <p>7 教育環境の整備</p> <p>(1) 安全安心な教育環境の構築</p> <p>(2) 施設設備の点検・整備・美化の励行</p>
--	--

1. 学校運営について

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	総合	成果と課題
学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標を設定し、教職員間の理解のもとに教育目標の具現化を図る。	前年度の教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する。	—	—	前年度の学校評価の結果を踏まえ、適切な目標が設定された。
	運営方針の明確化とその実践	学校運営方針を学校内外に明確に示し、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育課題を明確にし、各教職員が運営方針を意識して教育活動を展開すると共に、教育目標や経営方針を生徒・保護者・地域に説明する機会を設ける。	—	—	職員や生徒は運営方針の理解が進んだ。各活動や新聞掲載を含め保護者や地域にも浸透しつつある。
学年学級目標	学年学級目標の具現化	学年目標に沿った経営を行う。	学年・学級目標の教員・生徒への浸透を図り、目標達成のために教育活動を展開する。	—	—	各学年、工夫を凝らし、積極的な学年・学級経営を行っている。

2. 教育活動・教育環境・その他について

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	中間	総合	成果と課題
教務	学習環境の整備と充実	校務の円滑な運営に努める。また、業務の効率化・マニュアル化を随時行い、各業務の負担軽減を図る。	各分掌・学年との連携を図りながら、学校行事のスムーズな運営に努める。また、学校教育目標を基点に全ての教育活動を繋げて構成できるよう、行事の見直し・精選を行う。	3.7	3.8	部会において、各自の仕事の見える化ができ、業務改善につながっている。
			授業時数の確保と出席率の向上に努める。また、成績処理・出欠統計など事務処理の効率化に努め、点検作業分担し、ミスの無いよう正確に行う。	3.5	3.5	職員が手薄な時も互いに協力して業務にあたれたので、スムーズな運営ができた。

			観点別評価や新教育課程への対応について持続可能なルール作りを検討する。また、各自の担当業務のリスト化や引継ぎ資料の作成を随時行い、教務部全体での円滑な業務遂行を目指す。	3.8	3.8	職員アンケートなどにより全体の意見を集約できたのはよかった。
			快適な教育環境の整備に努める。また、週案や朝会連絡を活用し、当面の行事予定や日程、日課変更などの周知を徹底する。	3.7	3.8	
	地域への発信とPTA活動	信頼される学校づくりに努め、積極的に広報活動を行う。	HP(全職員担当制)や中高だより(広報委員会)の作成を統括し、本校の活動に関する情報を充実させ、中学校や保護者・地域に情報を発信する。	4.0	3.8	学校ホームページの更新を定期的に行うことができた。
			オープンスクールや学校説明会等を通して、中学校(生徒・保護者・教員)への広報に努める。また、地区別説明会を行い、地域の方々に中高の雰囲気や現状を伝える。	3.7	3.8	学校説明会や地区別説明会、オープンスクールやHPを通して中高をアピールできた。しかし、募集定員の半数を超えることはできなかった。今後も時間をかけて地道に取り組む。
			各行事や発表会など、保護者や地域の方々に来校していただく機会を設ける。特に、PTA総会と報告会を合わせて出席率90%以上を目指す。	3.7	3.5	
研修	研修の充実	生徒・職員の研修を充実させる。	ICT関連(一人一台端末、EdTech含む)や観点別評価、特別支援等に関する職員研修を行い、生徒の学びの質を変えるための方策を検討する。	4.0	3.8	観点別評価、一人一台端末、新教育課程への対応など、なんとか形になった。
			各学年や他分掌との連絡を密にし、LHRや総合的な探究(学習)の時間などの企画・運営がスムーズに実施されるように努める。	3.8	3.8	総探の時間や心の教育の時間など、確実に確保し、本校独自の教育を実践できた。
			平和学習や人権学習、心の教育の時間等を充実させ、生徒の豊かな人間性を育てる。	4.0	3.5	
図書	図書館活動の充実	読書活動を推進し、読書に親しむ姿勢を育てる。	生徒主体の図書委員会活動を支援し、魅力的な図書館づくりを行う。また、図書館便りを10号以上発行する。	3.4	3.4	今年是新刊をあまり入れられなかったため、次年度入れられるようにする。
			朝の読書を活性化し、読書の習慣をつけさせ、読書の楽しさを実感させる。また、新鮮で魅力ある本を選定し、年間3冊以上の貸し出しを目指す。	3.0	3.0	貸出冊数は学期を追うごとに増加傾向となった。
			各学年や他分掌との連携を強化し、図書館の積極的な活用を推進する。	3.1	3.0	

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	誠実な生活態度を持ち、健全で気品ある中高生の育成を目指す。	誠実な生活態度を持ち、健全で、気品ある中高生の育成を目指す。	3.6	3.2	生徒に寄り添った様々な支援が実施できた。 生徒指導事案については、すべての教員の協力でしっかり指導できた。日々の生活の中で倫理観を育成していくことが大切である。
		携帯電話・スマートフォンの利用に関する情報モラル指導に取り組み、問題発生防止に努める。	携帯電話・スマートフォンの利用に関する情報モラル指導に取り組み、問題発生防止に努める。	3.8	3.8	
		保護者や地域社会との連携を強めるとともに、情報交換を図り、指導に活用する。	保護者や地域社会との連携を強めるとともに、情報交換を図り、指導に活用する。	4.0	4.0	
		問題行動の発生防止や、それに対する的確な対応と、再発・拡大防止に努め、生徒の健全な育成を推進し、郷土愛を育む。	問題行動の発生防止や、それに対する的確な対応と、再発・拡大防止に努め、生徒の健全な育成を推進し、郷土愛を育む。	4.0	3.8	
生徒会指導の充実	生徒の自主的・積極的活動を推進する。	各種生徒会活動や専門委員会、部活動などの活動等を通じて、自ら考え判断し、責任を持って行動できる生徒を育成する。	各種生徒会活動や専門委員会、部活動などの活動等を通じて、自ら考え判断し、責任を持って行動できる生徒を育成する。	3.8	3.8	今年度は各専門員会の新たな試みが充実して行われ、活発な生徒会活動となった。
		生徒会執行部を中心に各種専門委員会や部活動と協力しながら、主体的に学校行事に取り組む姿勢を育成する。	生徒会執行部を中心に各種専門委員会や部活動と協力しながら、主体的に学校行事に取り組む姿勢を育成する。	4.0	4.0	
		コロナ禍であっても取り組むことのできるボランティア活動や募金活動について考え実行することで、奉仕の精神と積極性を養う。	コロナ禍であっても取り組むことのできるボランティア活動や募金活動について考え実行することで、奉仕の精神と積極性を養う。	3.2	3.3	
生徒支援	カウンセリングの充実	豊かなコミュニケーション環境を整え、生徒の悩みや困りに気づき、支援する。	日常的に生徒とのコミュニケーションの場を設定し、必要に応じて個人面談を行う。	4.0	4.0	SSWと協力しながら、さまざまなケースに対応できた。 難しい対応を要する生徒が増える中、職員が根気強く指導・支援できていたと思う。
		いじめ根絶集会の実施によるいじめ防止に関する啓発や、生徒アンケート等を活用した悩みや困りの早期発見・早期対応に努める。	いじめ根絶集会の実施によるいじめ防止に関する啓発や、生徒アンケート等を活用した悩みや困りの早期発見・早期対応に努める。	4.0	4.0	
		保護者との連携を深め、全職員で生徒情報を共有し、一貫した指導支援を行う。	各学年会と連絡を密にし、必要に応じてケース会を開き、職員間で情報共有し具体的支援につなげる。	4.0	4.0	
		カウンセリングやストレスマネジメントに関する情報発信に努め、教育相談を充実する。	カウンセリングやストレスマネジメントに関する情報発信に努め、教育相談を充実する。	3.8	4.0	
	特別支援教育の充実	個別の教育的ニーズのある生徒に適切な指導支援を行う。	実態把握を行い、個別の指導計画を使って支援の方向性を共通理解して指導支援する。	実態把握を行い、個別の指導計画を使って支援の方向性を共通理解して指導支援する。	3.8	4.0
個人カルテを活用しながら、家庭や関係機関（医療・福祉・労働）との連携を図る。			個人カルテを活用しながら、家庭や関係機関（医療・福祉・労働）との連携を図る。	3.8	4.0	
保健	保健管理	生涯を通じて心身の健康を保持できるよ	健康診断を通して健康状態を知らせ、事後措置を徹底し、個別指導を行う。	4.0	4.0	保健だよりも内容が充実していた。

		う、生徒の自己管理能力の育成を図る。	健康観察に努め、健康上問題のある生徒の把握をし、全職員に共通理解を図った上で、生徒の健康状態に応じた適切な行動がとれるようにする。	4.0	4.0	
			感染症の早期発見に努め、感染症予防対策を実施し、その方法について理解を図り適切な行動が取れるようにする。	4.0	4.0	
			保健だよりの発行（11回）、及び保健に関する啓発研修を実施する。	4.0	4.0	
	安全管理	救急体制の充実を図る。	緊急時の連絡系統・対処法の確認をし、職員の共通理解を図る。	3.6	3.5	救急体制については、定期的に防災意識を持たせることが必要である。 2月に危機管理マニュアルを刷新できた。次年度に十分活用したい。
健康上の問題がある生徒がいる場合、職員間で情報を共有し、緊急時に備える。			4.0	4.0		
避難訓練を実施し、避難ルートの確認と緊急時の対応について学ばせる。			3.4	3.7		
環境衛生管理に努める。		環境衛生諸検査を適切に実施する。	4.0	4.0	必要な検査は滞りなく実施できた。	
		施設・設備の定期検査を学期ごとに行う。	4.0	4.0		
美化	潤いのある生活環境の整備	学校環境の美化に努める。	掃除用具の在庫確認、および各掃除場所の道具の点検・補充を行う。	4.0	4.0	人数が少ない中、各場所を積極的に清掃できていた。
			学校の実態に合わせた清掃要領を作成し、各種専門委員会と協力しながら学校環境美化に対する自発的意識を高める。	4.0	4.0	
進路指導	進路指導の充実	家庭学習時間を増加させる。	「生活・学習の記録」を利用して、家庭学習時間の調査・集計を行い、生活習慣や学習習慣の個別指導への手立てを行う。	3.0	3.0	生活学習の記録の集約作業があまり効率的ではないので次年度はICTを利用した別の方法を試したい。 学習時間の個人差は大きいですが、個に応じた指導により、伸ばしていきたい。
		学び直しの組織的指導体制を確立する。	スタディサプリやマナトレなどを利用しながら、計画に沿って義務教育段階の学び直しを行う。また、自立活動との連携を図りながら、多くの教師が関わることで、生徒の意欲向上と教師の情報共有を図る。	3.0	3.8	
		学力の伸長を図る。	補習や模試を計画的に実施し、学力の把握に努める。また、結果の分析・検証を行い、生徒にフィードバックすることで、個々に応じた学習指導を行う。	3.8	4.0	
		学校全体で連絡を密にし、効果的な指導を行う。	WEB環境を利用しながら各種研修会に参加し、積極的に情報を収集する。また、得られた情報を教員間で共有し、生徒にとってよりよい進	3.8	3.8	

			路指導を行う。			スタディ・サプリの効果的な活用については今後の課題である。
		外部機関や地域との連携を密にし、生徒の進路意識を高める。	年間計画に基づき、校内外の進路行事に積極的に参加させ職業観の育成を図る。また、キャリアサポートスタッフと連携しながら、職業観の育成を行う。	4.0	4.0	
		生徒・保護者に対して積極的な情報発信に努める。	進路指導部員が進路に関する研究を積極的に行い、効果的な情報を担任・保護者・生徒に提供できるようにする。	3.8	3.8	
		進路決定100%を目指す。	進学希望者の全員の合格を目指し、学年・教科担当と連携し、効果的な受験指導を行う。また、補習及び個別指導の充実を図る。さらに、「大学入学共通テスト」等の情報を収集し、指導体制を確立していく。	4.0	4.0	3年生の進路実現に向けて、生徒一人ひとりに寄り添った指導ができていた。
			就職希望者の第一志望への合格を目指し、学年と連携をとり、生徒一人ひとりにあった進路指導を行う。公務員指導に対しては、指導体制を確立し、低学年時期から継続的に指導する。また、面接指導計画を立案し、全職員での面接指導の充実を図る。	3.8	4.0	
事務室	教育環境整備と事務運営	安全・安心な教育環境の整備に努める。	毎月の見回りを実施し必要な個所は補修を行う。	3.2	3.7	安全点検結果から各所の補修、交換、改善に努めた。コロナに伴う機器の設置も実施した。校地の除草作業等の徹底もできた。
			学期ごとに実施する安全点検で挙げられた項目について必要な措置を行う。	3.2	3.7	
		適切な会計事務を徹底する。	関係法規や事務処理マニュアルに則った事務を徹底する。	3.4	3.7	日頃から適切な管理に努めている。
			定期的に事務室で研修を実施し、事務処理ミスの防止を図る。	3.4	3.3	
		省エネ・経費削減の推進を図る。	デマンド装置を活用した節電等の実施により、昨年度と同水準の電気使用量に抑える。	3.2	3.3	電気代とコピー・印刷用紙については増加傾向である。学校全体における協力を依頼して節約に努める。
			両面印刷、裏面使用により用紙の使用枚数の削減を図る。	3.6	3.7	
			ミスプリントを削減しインク・トナー代の削減を図る。	3.0	3.7	
		開かれた事務室づくりを推進する。	学校、教職員、生徒、保護者に状況や課題、要望を踏まえた対応を行う。また、対応をできない場合は丁寧な説明を行う。	3.8	3.7	

		窓口や電話などの外部との対応は、その意図する部分を正確に把握するとともに丁寧な対応に努める。	3.8	3.7	
--	--	--	-----	-----	--

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>生徒・保護者のアンケート結果における全体平均は昨年度比で、生徒が0.2下降、保護者は変化なしであった。評価平均が3.5以上の項目数は昨年度比、生徒で13→8と減少したが、保護者は変化なし。個々の評価では生徒はやや下がったものの、多くの項目で昨年同様、生徒・保護者ともに評価・満足度が高かった。「保護者が学校の特色を知っている」が例年少し低めであった点は改善された。一方で、「先生と保護者の話す機会が多い」の大幅下落はコロナ禍が大きな要因ではあるが改善・工夫を要する結果となった。職員による評価も総じて高いが、課題や今後取り組むべき内容として以下があげられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人一台端末とそのソフトの授業活用は進んだ。また、1年生の新課程や観点別評価についても計画的に実施できた。 2. 3年生は全員が進路実現できた。就職も進学も100%、国公立大学も1名合格した。 3. 本校独自の取組であるパブリックワークや模擬会社を含む商業教育は、本校のふるさと教育として昨年度以上に積極的に取り組んだ。パブリックワークの代表班が、「長崎を元気にするアイデアコンテスト」に今年も応募した結果、本校から2年連続で最優秀賞受賞となった。 4. 3学年ビジネスキャリアコースが模擬会社の利益を用いた町への寄付や子供向け絵本の制作・寄贈、町の認知症サポーター制度への協力など、地域に貢献する活動を実践し、生徒の郷土愛の醸成、自己肯定感の向上につながった。 5. 通級指導、個別の支援計画の工夫やSSWと連携など、生徒に寄り添った計画的な支援が実施できた。また、担当者が小中の担当者との連携会合を始めることができた。 6. 家庭学習時間等の定期的な集約は確実に実施できたものの、学習時間そのものは生徒間でまだまだ個人差が大きい状態である。授業や課題の内容などのさらなる充実を図ることで、生徒の個々の学力を高めていきたい。 7. 学校説明会や地区別説明会、オープンスクールやHPを通してアピールをしてきたが、入学定員の半数を確保することができなかった。地区説明会は初めて上五島高校と合同実施ができ、2校の協力体制を地域に示すことにもつながった。
<p>次年度の改善や取組</p>	<p>令和5年度、県内で初めてのコミュニティ・スクールの高等学校となるので、地域との連携を深めて、以下の取組を一層充実させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人一台端末を含むICTを活用した教育や授業改善をさらに進め、学力向上に努める。また、観点別評価の改善・充実により、生徒の学びの質を変えるための方策を工夫して実践していく。 2. 総合的な探究の時間(白魚学・パブリックワーク)や商業実践教育など、地域に根差した主体的な取組を進め、活動を実践していく。 3. 生徒アンケート等を活用した悩みや困りの早期発見・早期対応に努めるとともに、個別指導や学び直しによる生徒の学習意欲の向上を図る。 4. 生徒主体のオープンスクールや学校説明会、PTA活動、地区別説明会等を通して、保護者や地域の方々に中高の教育活動や目指すものを周知し、生徒募集につなげていく。